

# ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

**No381**

平成 28 年 7 月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

**恒例の組合研修旅行を開催****R P F (固形燃料) 使用した 燃焼ボイラー****特種東海製紙三島工場を見学**

特種東海製紙三島工場前で記念撮影を



会議室で RPF 燃焼ボイラーの説明を



PAF(紙の博物館)を見学



RPF 燃焼ボイラーを見学

今年度の組合研修旅行は、感のある企業集団として、六月十一日(土)、十二日(日)の二日間にわたって開催されました。初日は午前九時にバスで上野駅を出発し、最近完成した「三島スカイウォーク」を見学する予定でしたが、渋滞に巻き込まれたため、予定を変更し、今回の目的である「特種東海製紙三島工場」に直行しました。

同社は「ユニークで存在

R P F 事業は組合事業としてすでに取り組んでいます。

三島工場では化石燃料の削減を目的としC重油に変え、固形燃料を使用する R P F / 木質チップ燃焼ボイラーを建設し、平成二十四年七月より稼働しているとの説明を受けました。

工場見学では、R P F を燃料とした第十号ボイラー

見学、動力源として高い性能を有しており、R P F や木材チップを使用しているために、環境にも最大限配慮している工場であると説明されました。

一行はこの後近くにある P A M (Paper and material) 「紙の博物館」を見学しました。ここは紙にまつわる

様々な資料展示、企画展など、紙文化の伝承・情報発信とユーザーのコミュニケーションの場として活用されています。

今ではお目にかかることのできない、昔の特殊紙の数々に、一行は目を輝かせ、予定時間をオーバーして見入っていました。

三島工場を後にして一行は宿泊先の「サンバレー伊豆長岡」へ向かい、午後

四時過ぎに無事到着しました。

午後六時半より宴会となり、平山理事長が「組合研修旅行は本当のためになる。一社でも多くの人に参加してもらいたい」と挨拶し、恩田博氏の音頭で乾杯し、いっものながらのにぎやかな宴会が遅くまで繰り広げられました。

翌日はゴルフ組が「伊豆国際カントリー倶楽部」に於いて第一〇四回ラベル会を開催し、新タック化成大西史浩氏が見事優勝しました。

一方、観光組は伊豆の国



観光組は伊豆の国パノラマパークや葦山反射炉を見学



第104回ラベル会は大西史浩氏が優勝

パノラマパーク、世界遺産の葦山反射炉、中伊豆ワイナリーなどを見学し、午後四時過ぎにゴルフ組と合流し、帰りも渋滞に巻き込まれ、上野駅に午後八時半に到着しました。大変お疲れ様でした。

## 日本ウエスト

### 新社屋を開設移転

#### マニフェスト変更なし

日本ウエストは、新社屋を京阪中書島駅近くに開設し、左記の通り営業本部・管理本部・工務本部の業務を六月一日より新社屋にて開始しました。

この新社屋には、グループ各社の業務を統括する本部が集約され、統括本部の機能をもつこととなります。つきましては、営業部・管理部（総務経理）・工務本部は、新社屋へ移動し業務を開始していただきますので、ご連絡先や郵便物等の送付先の変更登録をお願い申し上げます。

#### 【新社屋】

日本ウエスト株式会社 統括本部

（営業本部、管理本部、工務本部、処理・生産事業本部）  
住所 〒六一二・八二一九  
京都市伏見区表町五九〇番地一  
電話 〇七五・六〇四・一六五五

五五

FAX 営業本部 〇七五・六〇四・一七〇〇

管理本部 〇七五・六〇四・一六〇〇

一六〇〇

【本社工場（既存）】（処理・生産事業部、物流事業本部）

住所 〒六一二・八二四

四 京都市伏見区横大路千

両松町九番地一

電話 〇七五・六〇四・一六五七

六五七

六五七

FAX 〇七五・六〇四・一六五六

六五六

#### 【排出事業者の皆様へ】

産業廃棄物処分業許可証の内容に変更はございませんので、契約書やマニフェスト記載内容等に変更ございません。今のマニフェストは引き続きご利用戴けます。

【お問い合わせ先】管理本部

〇七五・六〇四・一六五五

五五

日本印刷産業連合会 GP 認定工場

日本ラベルとサン技研が認定工場に

シール業界では20番目の認定に

定工場として稼働していま 刷、弥生印刷、前田印刷、  
宣広プロが認定されており、  
シール印刷業界ではサン技 今回の二社を合わせると六  
研が二十番目となり、こ 社となります。  
れまでに当組合では池田印

### グリーンプリンティング工場認定について

(有)サン技研 本堂 誠



私は以前 ISO14000 の取  
得も考えたこと もありました。し  
かし十名に満たない会社では取得  
や維持にかかる費用以上を利益と  
して稼ぐことは難しいと思いい挑戦

しませんでした。

しかし今回 GP を知り ISO14000 と比べ  
ると安価で印刷業界のための資格であると感じ挑  
戦をすることとしました。GP に挑戦してみて、知  
らなかったことを多数教えていただき今まで出来  
ていなかった事が出来るようになりました。

たとえば VOC という言葉すら知りませんでし  
た。VOC 発生を減らすため使用済みウエスは蓋つ  
き容器で保管する事や振動、騒音の申請を役所に提  
出するなどです。

GP 取得のためにかかった費用以上に社内が良  
くなったと感じています。弊社は全日本シール印刷  
協同組合連合会で二十番目です。年々規制が増えて  
取得のハードルは上がっていくと思います。

早めに動いた会社のほうが得るものが大きいと  
思います。GP 取得を考えている経営者の方は早め  
の行動をお勧めします。

### 年次大会沖縄大会

復興支援のためにも  
参加をお願いします

全日本シール印刷協同  
組合連合会主催の第五十八  
回年次大会・沖縄大会は、  
十一月四日(金)に九州シ  
ール印刷協同組合の担当で開  
催されますが、現在参加者  
を募集中です。

九州シール印刷協同組合  
では、今回三百五十名の参  
加目標を立てていますが、  
各協同組合に対してさらな  
る参加要請がありました。

特に四月の熊本地震があ  
ったため、九州の濱崎理事  
長も「復興を応援するとい  
う意味で一人でも多く参加  
して頂きたい」と語ってお  
り、沖縄では初めての年次  
大会でもあるだけに、何と  
か成功させたいという意気  
込みが伝わってきます。

組合員・会友、協賛会の  
方々にははすでに募集案  
内を送付しておりますが、  
一人でも多く参加して頂き  
ますよう、ご健闘のほどを  
よろしくお願いいたします。

日本印刷産業連合会は、  
このほど第四〇回グリーン  
プリンティング認定委員会  
で新規一〇工場と更新二〇  
工場の合わせて三〇工場を  
認定しましたが、今回当組  
合員の(株)日本ラベル(平山  
良一社長)と、(有)サン技  
研(本堂誠社長)の二社が新  
たにGP認定工場となりま  
した。

GP認定制度は、平成十  
八年に環境に配慮した印刷  
製品が広く普及することを  
目的として創設され、現在  
全国で三六二工場がGP認

十年ぶり、三回目のそれは、何の前触れもなく、突然やってきた。

五時になって帰り支度を始めると、何かふらふらする感じになり、すぐについて来たかと二十年前、十年前の悪夢が蘇ってききました。

病名は「メニエール病」、とにかく天井が時速三百キロで回り、当然目を開けていられず、吐き気も襲ってきます。

過去二回も事務所で発作が起き、この時は救急車を呼んでもらい、一回目は一週間、二回目は三日間の入院となりました。

今回で三回目ですが、不思議なことに十年周期で発作が起きています。今回も天井が回り出し、よほど救急車を呼ぼうと思いましたが、この時は私一人しかいなかったもので、携帯を操作しようにもめまいがひどく、どうすることもできませんでした。

取り敢えずソファーに横になっただけで、そのうち収まるだろうと思いましたが、なかなかめまいは収ま

ってはくれません。

とにかく目をつぶってめまいが収まるのを待つしかありませんでした。救急車を呼べばまた大騒ぎになってしまうので、ひたすら耐えていました。

結局いくらかめまいが収まったので、明け方の六時半、ふらふらしながらもなんとか家にたどり着くことが出来ました。

それは何の前触れもなく

突然にやってきました

専務理事 本間 敏道

は飲んでいましたが、そのうちに飲むのを辞めてしまいました。

『トラベルミン』も同じような成分だと聞いていたので、女房に買いに行かせ服用し、現在も持ち歩いていません。

組合に入ってから、二十八年になります。この間尿管結石で一週間に二回も救急車のお世話になり、そ

家に着いてからはめまいよりも吐き気の方がつらくな

り、お腹は空いているのに、食べられない。薬を飲むにも飲めない状態でしたが、何とかおかげを食べて薬を飲むことが出来ました。

このとき私が飲んだ薬は『トラベルミン』です。この病気は耳の内

分泌液の異常ですから、三半規管の異常です。乗り物酔いの薬と成分はあまり変わらないようです。過去二回の時は、医師が処方した薬をしばらくの間

の後鼠径ヘルニアの手術、そして二年前には急性胆のう炎で長期の入院となり、皆さんご迷惑とにご心配をおかけしました。私も今年で六十七歳になりましたが、人からは半分お世辞で、「年には見えないよ」といわれて気を良くし

注射をしてもらったり、膝関節痛にもなり、グルコサミンを飲んだり、財布の中はクレジットカードよりも病院の診察カードの方が多くなりました。

先日、自民党の麻生財務大臣が講演先で「老後が心配とか、訳の分からないことを出していたけど、『おまえいつまで生きているつもりだ』と思いついて見えていました」と失言し物議を醸しました。

かつて双子のきんさん、ぎんさんが、テレビコマーシャルに出て、そのお金はどうしますかと聞かれたときに、稼いだお金を老後に使いたいと話していたのを思い出しました。

きんさん、ぎんさんは日頃からユーモアに富んだ人達でしたから、冗談の積りだったのでしょうか、この九十歳のおじいさんが、どんな意図で話したのかは分かりません。いくつになっても老後を心配しなければならぬ国は、願い下げです。

死ぬまで元気で長生きしたいと思う今日この頃です。